

鈴木 泰教授 履歴・業績

鈴木 泰 教授 履歴・業績

履 歴

[学歴]

- 1965年 4月 東京大学教養学部文科Ⅲ類入学
 1971年 6月 東京大学文学部国語国文学科卒業
 1974年 3月 東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専門修士課程修了
 (文学修士「結果表現の使用助詞二とトによる相違」)
 1975年 3月 東京大学大学院人文学科研究科国語国文学専門博士課程退学
 2010年 7月 博士(文学) 東京大学「古代日本語時間表現の形態論的研究」

[職歴]

- 1975年 4月 山形大学人文学部国語国文学科 専任講師
 1979年 2月 山形大学人文学部国語国文学科 助教授
 1981年10月 武蔵大学人文学部日本文化学科 助教授
 1986年 4月 武蔵大学人文学部日本文化学科 教授
 1993年 4月 お茶の水女子大学文教育学部言語文化学科 教授
 2003年 4月 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部 教授
 2009年 3月 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部
 定年退職(東京大学名誉教授)
 2009年 4月 京都橘大学文学部 教授
 2010年 4月 専修大学文学部日本語学科 教授(～2016年 3月)
 1987年 3月 サンパウロ大学(ブラジル) 文学部日本語過程客員教授(～1988年
 3月)
 2003年10月 アンカラ大学(トルコ) 集中講義
 2009年 3月 北京日本学研究中心(中国) 派遣教授(～7月)

[学会および社会における活動など]

在所属している学会（日本語学会・日本語文法学会・訓点語学会）

- 2000年4月 日本語文法学会評議員（～2009年3月）
2000年6月 日本語学会評議員（～2018年5月予定）
2001年6月 国語学会編集委員（～2004年5月）
2002年6月 国語学会評議員選挙管理委員長（～2003年5月）
2002年7月 日本語文法学会編『日本語文法事典』編集委員（～2014年7月）
2004年4月 日本語文法学会会長（～2007年3月）
2006年6月 日本語学会理事（～2012年5月）
2009年6月 日本語学会会長（～2012年5月）
2011年4月 財団法人 博報児童教育振興会 日本語海外研究者招聘事業審査委員（～2014年3月）
2012年6月 日本語学会編『日本語学大辞典』編集参与（現在に至る）
2014年10月 日本学術会議連携会員（～2020年9月予定）
2015年4月 専修大学人文科学研究所所長（～2016年3月予定）
2015年6月 日本語学会理事（～2018年5月予定）
2000年5月 国語学会春季大会シンポジウム基調報告「日本語研究の新世紀 日本語研究の新世紀 日本語史研究の視点」（専修大学）
2000年12月 日本語文法学会第1回大会・設立記念フォーラム講演（京都教育大学）
2009年10月 国際学術フォーラム「日本語研究の将来展望」講演（国立国語研究所）

[職務上の実績に関する事項]

- 2003年4月 大学設置・学校法人審議会専門委員（～2009年3月）
2003年4月 大学評価・学位授与機構学位審査臨時専門委員（～2005年3月）
2008年 科学技術・学術審議会学術分科会学術研究推進部会
「国語に関する学術研究の推進に関する委員会」委員
2010年4月 日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員（～2011年3月）

- 2012年 4月 文化庁 文化審議会臨時委員（国語分科会）（～2016年 3月予定）
 2012年 日本学術振興会 平成24年度卓越した大学院拠点形成支援補助金事業委員会委員

業 績

[著書，学術論文等]

＜著書＞

- 『ケーススタディ日本文法』（共著，桜楓社，1987年 4月）
 『フロッピー版 古典対照語い表および使用表』（共著，笠間書院，1989年 9月）
 『古代日本語助詞のテンス・アスペクト—源氏物語の分析—』（単著，ひつじ書房，1992年 5月）
 『日本語要説』（共著，ひつじ書房，1993年 5月）
 『日本語文法の諸問題 高橋太郎先生古希記念論文集』（共著，ひつじ書房，1996年11月）
 『日本語の文法』（共著，ひつじ書房，2005年 4月）
 『古代日本語の時間表現の形態論的研究』（単著，ひつじ書房，2009年 2月，博士論文）
 『現古事典』（共著，河出書房新社，2012年 3月）
 『語形対象 古典日本語の時間表現』（単著，笠間書院，2012年 7月）
 『日本古典対照分類語彙表』（共著，笠間書院，2014年 6月）

＜学術論文＞

- 「結果表現の使用助詞ニとトによる相違」(単著，1974年 3月，未公刊 修士論文)
 「中古における助詞「ナル」の用法と助詞「ニ・ト」の相関」(単著，『国語と国文学 612号』56-71，1975年 2月)
 「指定辞」「ニテ」の句格」(単著，『山形大学紀要（人文科学） 9巻1号』145-

- 191, 1978年2月)
- 「情態副詞の性質についての小見」(単著, 『山形大学紀要(人文科学) 9巻3号』287-322, 1980年1月)
- 「タリ活用形容動詞の通時的変化傾向とその要因」(単著, 『武蔵大学人文学会雑誌 13巻4号』89-121, 1982年3月)
- 「中古に於ける評価性の連用修飾について」(単著, 『日本語学 2巻3号』58-67, 1983年3月)
- 「「き」「けり」の意味とその学説史」(単著, 『武蔵大学人文学会雑誌16巻3号』84-149, 1983年3月)
- 「〈ナリ述語〉と〈タリ述語〉」(単著, 『日本語学 4巻10号』53-68, 1985年10月)
- 「動詞の形態論—テンス—」(単著, 『国文学 解釈と鑑賞 51巻3号』83-88, 1986年1月)
- 「古典文法研究の歴史から—完了の助動詞ツ・ヌの場合—」(単著, 『国文学 解釈と鑑賞 51巻8号』29-38, 1986年8月)
- 「O sistema temporal da Língua Japonesa nas narrativas clássicas」(単著, Estudos Japoneses 8 77-92, 1988年3月)
- 「現代日本語と古代日本語のテンス」(単著, 『国文学 解釈と鑑賞 55巻1号』111-116, 1990年1月)
- 「ウェイランド『修身論』の語彙」(単著, 『武蔵大学人文学会雑誌 21巻1・2号』295-316, 1990年3月)
- 「古代語文法研究のために」(単著, 『国文学 解釈と鑑賞 56巻1号』80-83, 1991年1月)
- 「完了の助動詞のアスペクトの意味—源氏物語の移動・移し替え動詞の場合—」(単著『国語学 165集』67-80, 1991年6月)
- 「古代語の文法現象」(単著, 『国文学 解釈と鑑賞 58巻1号』145-155, 1993年1月)
- 「時間表現の変遷」(単著, 『言語 22巻2号』60-67, 1993年1月)
- 「源氏物語会話文における動詞基本形のアスペクトの意味」(単著, 『武蔵大学人文学会雑誌 24巻2・3号』35-64, 1993年2月)

- 「時の助動詞からみた古典のテキスト」(単著、『月刊国語教育 11月号』14-17, 1993年10月)
- 「古典語と日本語教育」(単著、『国文学 解釈と鑑賞 60巻7号』139-144, 1995年7月)
- 「アスペクト—チベット語と古代日本語の evidentiality に関連して—」(単著、『国文学 解釈と鑑賞 61巻7号』12-18, 1996年7月)
- 「古典文法をどう見なおすか」(単著、『日本語学 16巻4号』46-54, 1997年4月)
- 「「たり」と「り」=継続と完成の表現」(単著、『国文学 解釈と教材の研究 43巻1号』70-77, 1998年10月)
- 「源氏物語における「けり」」(単著、『むらさき35輯』15-26, 1998年12月)
- 「宇津保物語における基本形のテンス—古代語のテンスにおけるアクチュアリティーの問題」(単著、『国語学 196集』50-62, 1999年3月)
- 「古代日本語のアスペクト—現代日本語と比較して」(単著、『台湾日本語文学報 14』1-23, 1999年12月)
- 「メノマエ性」(単著、『日本語学 19巻5号』212-214, 2000年4月)
- 「「き」「けり」論の論点」(単著、『国文学 解釈と教材の研究 45巻14号』28-35, 2000年12月)
- 「古代日本語研究の新時代—動詞の形態論」(単著、『国文学 解釈と鑑賞 66巻1号』87-95, 2001年1月)
- 「時間的局在性とテンス・アスペクト—古代日本語の事例から—」(単著、『日本語文法 2号』24-40, 2001年9月)
- 「古代日本語における完成相非過去形(ツ・ヌ形)の意味」(単著、『国語と国文学 945号』49-62, 2002年8月)
- 「対照研究の可能性」(単著、『日中言語対照研究論集 5号』1-9, 2003年5月)
- 「日本語の時間表現」(単著、『日語日文学研究 50号』19-28, 2004年8月)
- 「「見ゆ」と「見えたり」のちがいについて」(単著、『むらさき 41輯』68-72, 2004年12月)
- 「テンス・アスペクト研究と連語—古代日本語の「思ふ」」(単著、『国文学 解釈と鑑賞 70巻7号』166-180, 2005年7月)

- 「古代日本語の「思ふ」の条件形における主語の交代現象」(単著、『日語研究 4』3-21, 2006年12月)
- 「古典文学研究についての語彙研究—特徴語彙からみた枕草子と徒然草」(単著、『国文学 解釈と鑑賞 72巻 1号』128-135, 2007年 1月)
- 「古代日本語の形態論」(単著、『日語学習と研究《日語学習と研究》139号』1-5, 2008年12月)
- 「過去・現在・未来は何が表すのか—近代文語文典の時制認識—」単著、『国語と国文学 1031号』1-16, 2009年10月)
- 「日本語史における条件=時間=理由関係の表現方法とムード・テンスの変化」単著、『日本語文法 12巻 2号』3-23, 2012年 9月)
- 「とりつけの連語としての「扇をさし隠す」」単著、『むらさき 49輯』66-71, 2012年12月)
- 「橋本新吉の講義『国語法概論』の筆記(1)」(単著、『専修大学人文科学研究so月報 260号』1-45, 2012年11月)
- 「橋本新吉の講義『国語法概論』の筆記(2)」(単著、『専修大学人文科学研究so月報 264号』1-55, 2013年 5月)
- 「研究報告 分類番号順古典語彙表」(共著, 学習院大学編集・発行『学習院大学計算機センター年報 33号』1-79, 2013年 3月)
- 「古典日本語における対象を表すはだか格とヲ格—宇津保物語を資料として—」(単著, 類型学研究会『類型学研究 4号』34-57, 2014年 4月)
- 「「にくむ」「うらむ」における〈心理的なかわり〉への移行」(単著, 日本語文法研究会『研究会報告 36号』連語論研究〈Ⅲ〉12-28, 2014年12月)
- 「増渕恒吉教授による橋本進吉の講義「日本文法論」筆記」(単著、『専修国文 98号』1-84, 2015年 9月)
- 「【資料紹介】釘本久春所持資料—「第二回国語対策協議会速記録(第1日)」及び「日本語教科用図書調査会会議報告—」(共著『専修大学人文科学研究so月報 279号』, 2015年12月)
- 「指定辞トシテ・ニシテの句格」(単著, 松村明教授還暦記念会編『松村明教授還暦記念国語学と国語史』, 明治書院, 347-365, 1977年 9月)

- 「漢語ナリ活用形容動詞の史的性格について」(単著, 渡辺実編『副用語の研究』, 明治書院, 379-403, 1983年10月)
- 「石行寺藏大般若經の字音について」(単著, 築島裕博士還暦記念会編『築島裕博士還暦記念 国語学論集』, 明治書院, 194-219, 1986年3月)
- 「古代日本語の過去形式の意味」(単著, 松村明教授古希記念会編『松村明教授古希記念国語研究論集』, 明治書院, 106-131, 1986年10月)
- 「古文における六つの時の助動詞」(単著, 『国文法講座2』, 明治書院, 273-309, 1987年4月)
- 「ウエイランド『修身論』の漢字」(単著, 佐藤喜代治編『漢字講座8』, 明治書院, 128-164, 1988年10月)
- 「ウエイランド修身論の漢語訳書」(単著, 此島正年博士喜寿記念会編『此島正年博士喜寿記念国語語彙語法論叢』, 桜楓社, 208-226, 1988年10月)
- 「文の構成単位と品詞」(単著, 北原保雄編『講座日本語と日本語教育4』, 明治書院, 53-72, 1989年3月)
- 「自動詞と他動詞」(単著, 『別冊 国文学 No三八 古典文法必携』, 学燈社, 46-54, 1990年2月)
- 「中古における疊語形式の情態副詞の機能と意味」(単著, 松村明先生喜寿記念会編『国語研究』, 明治書院, 105-127, 1993年10月)
- 「擬声語・擬態語」(単著, 古橋信孝, 三浦祐之, 森朝男編『古代文学講座7 ことばの神話学』, 勤勉社, 200-212, 1994年11月)
- 「メノマエ性と視点(Ⅰ)—移動助詞の～タリ・リ形と～ツ形, ～ヌ形のちがい—」(単著, 築島裕博士古希記念会編『築島裕博士古希記念国語学論集』, 汲古書院, 198-219, 1995年10月)
- 「メノマエ性と視点(Ⅱ)—移動助詞の基本形を中心に—」(単著, 『山口明穂先生還暦記念国語学論集』, 明治書院, 113-154, 1996年6月)
- 「上代語「けり」の意味」(単著, 川端善明・仁田義雄編『日本語文法 体系と方法』, ひつじ書房, 171-190, 1997年10月)
- 「助動詞からのぞかれるべき「けり」について」(単著, 『東京大学国語研究室創設百周年記念 国語研究論集』, 汲古書院, 176-194, 1998年2月)

「テンス・アスペクトを文法的にみる」(単著、『朝倉日本語講座6 文法Ⅱ』, 朝倉書店, 114-134, 2004年6月)

「古代日本語におけるテンス・アスペクト体系とケリ形の役割」(単著、『飛田良文先生退任記念論集』, 東京堂, 427-441, 2004年9月)

「訓点資料における「いへり」と「いふ」」(単著、『築島裕博士傘寿記念国語学論集』, 汲古書院, 189-211, 2005年10月)

「古代日本語の心理表現における恒常性・客観性と過程性」(単著、『ことばの科学11』, むぎ書房, 183-206, 2006年3月)

「橋本進吉の文法論と学校文法への採用, 影響」(単著、『日本語論究13 昭和前期日本語の問題点』, 明治書院, 309-333, 2007年9月)

「日本語の時間表現について—古典語と現代語の接点—」(単著, 中国語教育文集之10 中日跨文化交流研究』, 1-18, 2014年6月)

『古田東朔 近現代日本語生成史コレクション』(全6巻)(共著, くろしお出版, 2010年5月~2014年12月)

《その他》

「古典語における文体と体格形式および構文的機能との関係」(2015年1月11日, 公開)

シンポジウム「日本語条件文の諸相—地理的変異と歴史的変遷—」文京シビックホール)

「連語論における〈心理的なかわり〉への移行—「にくむ」「うらむ」のばあい—」(2015

年3月7日, 奥田靖雄著作集刊行記念国際シンポジウム 大阪大学)

「相和初期における橋本進吉の文法論の展開—昭和四年と七年の講義筆記を比較して—」

(2015年6月16日, 第五九回 NINJAL (国語研) コロキウム)